

Weekly Report

2023-24年度
国際ロータリーのテーマ



世界に希望を生み出そう

事務局：460-0003
名古屋市中区錦1-13-19
名錦ビル7F
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：千秋 季頼
幹事：本多 誠之
クラブ委員長：萩原 孝則
例会日：毎週木曜日PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋

2023-24年度
名古屋瑞穂ロータリークラブ
会長のテーマ
「より楽しく、誇りある瑞穂ロータリークラブ」
～明るい未来に向けて、希望を生み出そう～

第2063回例会

～基本的教育と識字率向上月間/ロータリーの友月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2023年9月7日(木) 晴 第9回例会

司会：鳥山政明 会場委員長
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」
ゲスト：名古屋城調査研究センター 主査 原 史彦さん

会長挨拶

安井友康 副会長

皆さん、こんにちは。今週は千秋会長公務で欠席によりまして副会長の安井がご挨拶を代行させていただきます。

日頃、会長挨拶を何気なく聞いておりますが、毎週大変なことだと痛感いたしております。ネタも尽きてしまひまして、ご承知の方もあるかと思いますが、今週は「パレートの法則」、俗にいいます「2-6-2の法則」・「働きアリの法則」といわれるものをご紹介します。



- ・働き蟻のうち、よく働く2割のアリが8割の食料を集めてくる。
- ・よく働いているアリと、普通に働いている(時々サボっている)アリと、ずっとサボっているアリの割合は、2:6:2になる。
- ・よく働いているアリ2割を間引くと、残りの8割の中の2割がよく働く蟻になり、全体としてはまた2:6:2の分布になる。
- ・よく働いているアリだけを集めても、一部がサボり始め、やはり2:6:2に分かれる。
- ・サボっているアリだけを集めると、一部が働きだし、やはり2:6:2に分かれる。

こういう法則を研究者がつきとめまして、これはアリの世界だけではなくて、人間社会にもあらゆる場面で同じような状況が見られるということでございます。

悪い言い方をすれば、必要悪でありまして、さてさてどうしたものか…皆様の会社にあてはめていただきますと、さてどのような感じになりますでしょうか？

出席報告

花井芳太郎 出席委員長

会員69名 出席49名 (出席計算人数56名)

出席率 75.38%

ニコボックス

花井芳太郎 ニコボックス委員長

- ・野崎さんはじめ皆さんに家内共々お世話になりました。鈴木淑久さん、ご無理言いました。喜んでいただきました。渡辺喜代彦さん
- ・今月、9月は66回目の誕生日です。高齢者2年目です。関谷 俊征さん
- ・昨晩北海道旅行より帰りました。渡辺さんご夫妻とは小樽カントリーでゴルフをご一緒させて頂き、また大変お世話になり感謝です。昨日は御前水ゴルフ倶楽部では、山口さんを初めロータリーの仲間とゴルフを楽しませて頂き、ありがとうございました。野崎 洋二さん
- ・関谷君、色々お世話になりました。ありがとうございました。長瀬憲八郎さん
- ・涼しくなってきました。ゴルフに行きましょう。内田 久利さん
- ・関谷さん色々ありがとうございました。鈴木 淑久さん

- ・本日の卓話とても楽しみにしております。本多 誠之さん
- ・北海道遠征お疲れ様でした。山口 哲司さん
- ・先日、待ちに待った通知がありました。期待していた結果となりうれしいです。田中 宏さん
- ・先日は関谷さんにお世話になり、ありがとうございました。杉江 建亮さん
- ・渡辺喜代彦さん、松波先生、お世話になりました。グランパス最近元気ないです。岡部 光邦さん
- ・9月2日トヨタ グランパス戦 山口さんをお願いしてスーパールームでの観戦が出来ました。ありがとうございました。松波先生ありがとうございます。萩原 孝則さん
- ・9月2日の豊田スタジアムにご一緒いただいた皆様には大変お世話になりました。松波先生ご馳走いただきましてありがとうございます。村瀬 俊高さん
- ・鈴木淑久さん先日は大変お世話になりました。ありがとうございます。加藤 直大さん
- ・皆さん涼しくなりましたね。内藤 晶文さん 森 裕之さん

幹事報告

本多誠之幹事

- ・9/7(木) 例会 13:40～ 長期ビジョン委員会 4F「梅の間」同日 19:00～受付 19:30～RAC例会ウイंकあいち1003 担当:渡邊将之さん、岡部光邦さん
- ・9/11(月) お月見例会 受付17:00～ 例会17:30～西鉄グランドホテル2F 会費:12,000円
- ・9/14(木) ガバナー補佐訪問懇談会 11:30～12:10 ヒルトン4F「梅の間」例会 12:30～13:30 ヒルトン4F「竹の間」第2回クラブアッセンブリー13:40～ヒルトン4F「桜の間」クラブアッセンブリー後第3回理事会 ※クラブ計画書ご持参願います
- ・9/21(木) リスペクト例会 受付:17:30～ 18:00～20:00 ヒルトン名古屋5階「銀扇の間」
- ・来年5月シンガポールの国際大会ガバナーナイトのご参加者人数を把握したいと地区から要請がありました。いつもより早いのですが、事前確認のご案内を出す予定ですのでよろしく願います。

9月誕生日おめでとう

関谷 俊征さん 鈴木 淑久さん 近藤 雄亮さん
加藤 直大さん 原田 敬生さん 大嶽 達郎さん
杉山 裕一さん

委員会・同好会報告

ゴルフ部会

ゴルフ部会9月度 (439回)

開催日:9月4日(月)

名古屋倶楽部にて第439回ゴルフ部会が開催されました。

氏名	グロス	HDCP	ネット
優勝 大嶽 達郎さん	91	20.8	70.2
2位 堀 慎治さん	76	7.6	68.4
3位 田中 宏さん	91	20.8	70.2

ただいまご紹介に預かりありがとうございます。現在は名古屋城の調査研究センターというところで、名古屋城の整備事業等を担当しております。



以前は徳川美術館に在籍しており、尾張藩のことを調べておりました。その辺りのことをお話できればと思います。

尾張藩は名古屋城のみならず、領内に数多くの別邸を設けました。現在確認されている領内御殿は15箇所。その大半は初代義直が造営した御殿ですが、2代光友が造営した横須賀御殿を含めて大半の御殿は義直・光友の歿後には廃絶したため、江戸時代を通じて遺された御殿は、熱田の西浜御殿・東浜御殿の2御殿しかありません。

総称して熱田浜御殿とするこの2御殿は、尾張藩にとって重要な御殿に位置付けられていますが、また東海道宮宿という名古屋の玄関口にあって、尾張藩の顔としても機能した施設として特筆される御殿でした。しかしながら、現在2御殿があった場所にはほとんどその痕跡を遺さず、記録も不確かであったため、その実態はこれまで謎に包まれていました。

こうした中、徳川美術館に在職していた平成30年(2018)に、徳川林政史研究所で東浜御殿の図面を発見しました。この図面の発見によって詳細な御殿配置が明らかになると同時に、全く想定していなかった御殿の機能も明らかになったのです。また、この発見を契機に様々な記録を見直した結果、従来定説を見直す必要が生じ、これまでの調査によって明らかとなった熱田浜御殿の歴史と構造について紹介したいと思います。

これまで東浜御殿は、寛永11年(1634)頃、西浜御殿は、承応3年頃(1654)頃と、特に根拠も無く言われておりました。若干の建設年代の見直しはされて、近年宮の渡し公園に設置された東浜御殿の解説看板においては寛永元年建造と修正されましたが、初代義直の記録『源敬様御代御記録』には元和9年(1623)の記事に「熱田東御屋敷」と明記されているように、少なくとも寛永年間に建てられたのではない事は明らかであります。また、あえて「東」と書くことは「西」にも御殿があったことを示唆しており、元和9年以前から両御殿が存在したと断言しても良いかと思えます。

では、いつから御殿が存在したのか。ですが、その参考になるのは、尾張藩御殿の記録を集めた「尾州并岐阜御殿等當時存亡吟味留」(徳川林政史研究所蔵)です。ここに興味深い記事があり、本来名古屋城は現在の形で完成ではなく、徳川家康はさらに広大な規模にするように指示を出していた。北は庄内川・矢田川を外堀とし、東別院がある古渡を南限とする壮大な城郭で、完成していたら間違いなく国内随一の規模になったはずですが、家康が亡くなった時に、これ以上の工事は不要としてこの計画は中止されたことは知られていました。しかし、同書にはこの時不要となった石材・木材を利用して、尾張藩付家老の成瀬隼人正が熱田に「御軍用」の施設を造ったという熱田地区の伝承記事が治められていました。

また、西浜御殿も元は西方の大瀬子村の「城之内」に存在したことも同書から確認できました。「城之内」という地名が示すように、元は福島正則の別邸だったようで、西浜御殿は尾張藩によって新設された御殿では無く、元から存在した屋敷を転用した可能性が高いです。その旧来の御殿を現在の神戸町へ移転したのが承応3年(1654)だったため、いつしかこの年が西浜御殿の新設年として定説化されたのだろう。西浜御殿は江戸時代以前から存在した御殿だったといっても、地理的にはありえる話ではあります。

【東浜御殿の構造】

発見した東浜御殿図面には、取り壊す建物が黄色の紙で示されているため、建設図面では無く一定度の役目を終えた時点で作成された図面と判る。天和3年(1683)に江戸市ヶ谷上屋敷が焼失

した際、東浜御殿の建物を上屋敷の建物として移設した事が明らかであるため、おそらくこの前後に作成された図面と考えられる。廃絶期の図面とはいえ、当時存在した建物が全て描かれており、全盛期の姿を知ることは可能であります。

これまで内部構造が不明だったが、この図面によって詳細な御殿配置が明らかとなった。御殿の敷地の北東部が入隅状で欠けているのは、鬼門除けのまじないとみられています。そのため、正方形ではなく5隅状態となりますが、その5隅にいずれも平屋建ての櫓を建てて防備施設としていました。特に南東の櫓を「寢覚櫓」、南西の櫓を「桑名櫓」と称していたことは他の記録からも判明しています。

門は北・西・南に置かれていますが、陸と直接繋がっていたのは北側のみで、他の2門は海に面して建てられています。南側の門は海上からの出入りを行う門で、西側の門が正門だったことが御殿配置からわかります。御殿の玄関は西向きに建てられており、かつては西側正面に將軍専用の「御成橋」が架かっていたことが別の記録から判明しました。また南側には伊勢湾眺望用に「二階御書院」も建てられていました。

上屋敷といえば尾張藩の顔であり、その玄関は最も威儀を表す建物で、そこに東浜御殿の建物を転用したということは、東浜御殿の建物は尾張藩の顔に相応しい建物という事でもあります。つまり、名古屋城本丸御殿と同等の規模・仕様と思われる御殿だったわけで、実際に3代將軍家光を寛永11年(1634)に迎える際、尾張藩は威信をかけて東浜御殿を改造しているため、発見された図面に描かれた東浜御殿は豪華華麗な御殿だったと判断してよろしいかと思えます。

【西浜御殿の役割】

家光の上洛を最後として、以後長らく將軍の上洛は無くなっていったため、東浜御殿の將軍宿館としての役割は終わってしまいますが、外観のみは名古屋の玄関口として維持されていきました。それに対して西浜御殿は、東海道を通過する貴賓を応接する御殿として、また尾張藩主が熱田神宮へ参詣する際の身支度をする御殿として利用され続けたため、幕末まで御殿は存続しました。そのため、幕末に尾張徳川家14代慶勝によって撮影された写真や、御殿杉戸8枚(名古屋博物館蔵)、御殿門(春日井市公民館前庭に移設)などが現在に伝わっています。

昭和48年(1973)の中日新聞に、内田町でのガス管工事の際、東浜御殿の石垣らしき石材が出土した記事があり、御殿遺構残存の可能性を裏付けています。あつた宮宿会はこの石の行方を捜す過程で、白鳥小学校校庭にある開校100周年記念石に東浜御殿の石を転用されていることを発見しました。さらに東浜御殿を描いた屏風が存在することも明らかにしています。

また、私が熱田御殿の記録を探していることを知った知人より、中村区の白王寺にある如意輪観音が、熱田御殿から移された仏像である事を教えてもらいました。残念ながらその由緒を証明する史料は見つからず、仏像も修理された古色を失ってしまったため、確定は出来ませんでした。これまで謎とされた御殿の記録が集まりつつあります。謎が多かった熱田浜御殿の実態を、これからは明らかにしていく予定です。本日は貴重なお時間いただきありがとうございました。

例会のご案内

■今 週 9月14日(木) ガバナー補佐訪問

時 間：12:30~13:30
場 所：ヒルトン名古屋4F「竹の間」

■次 週 9月21日(木) リスペクト例会

時 間：受付17:30~ 例会18:00~
場 所：ヒルトン名古屋5F「銀扇の間」

■次々週 9月28日(木) R規定により休会